

令和4年度 第1回紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事録要旨

【開催日時】 令和4年8月2日（火） 13時26分から15時03分まで

【開催場所】 紀の川市役所 本庁3階 庁議室

【出席者】

○紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会（委員8名内6名出席）

仁藤委員（近畿大学生物理工学部地域交流センター センター長）

林委員（和歌山県 那賀振興局長）

川口委員（株式会社日本政策金融公庫和歌山支店 支店長）

上野山委員（和歌山公共職業安定所 所長）

赤井委員（紀の里農業協同組合総合企画部 部長）

半田委員（紀の川市自治連絡協議会 会長）

○事務局（企画部 企画経営課）（4名）

角企画部長、栗本企画部次長兼課長、今井班長、辻副主任

○市担当課（8名）

企画部 地域創生課：畑次長、西川班長、中主査

農林商工部 農林振興課：村田課長、和泉主任、瀧本主査

観光振興課：岡班長、南條主任

○傍聴人（1名）

那賀振興局 地域課：白井課長

【欠席委員】

野村委員（紀の川市立地企業連絡協議会 会長）

中村委員（株式会社和歌山放送 代表取締役社長）

【会議の概要】

1. 開会（司会：栗本次長）

2. 挨拶（今城副市長）

3. 委員等紹介

委員及び事務局・担当課職員の紹介

4. 議題

(1) 会長・副会長選出

事務局から、会長に仁藤委員を副会長に野村委員を推薦。

審議会で承認され、会長は仁藤委員、副会長は野村委員に決定。

仁藤会長から就任挨拶。

○議長（仁藤会長）

「会議を公開」するために簡潔に取りまとめた議事録の公開並びに音声録音の承諾。

委員の過半数以上が出席しているため、会議が成立していることを報告。

(2) 「令和3年度地方創生推進交付金の効果検証」についての内

「住いも甘いも紀の川市」移住定住交流促進プロジェクト」について、効果検証シート等（資料①、①-1、①-2、①-3）をもとに事務局及び市担当課より説明。

【質疑】

委員：新規就農者の受入について、やる気のある方が集まっていると思われる。様々な地域がある中で、イチゴ以外の横展開を目指していくことも考えて、紀の川市を選択した理由を就農者へ体系立ててヒアリングして欲しい。的確にこの就農プログラムの良さを伝えて欲しい。また、移住について、若い世代に来てもらうことが大切であり、子育て世代は教育に関心があることが多い。周辺地域の教育機関も含めて教育環境が充実してきていることをアピールして欲しい。

委員：子育て世代は、小学校、保育園、幼稚園が整備されているかを重要視している。転入者にかかる KPI について、どの事業が効果的に働いて、どの事業が低調だったのか、各事業のセグメントごとの効果検証はできているか教えて欲しい。新規就農者はイチゴを栽培作物としているが、就農相談に来られる方は栽培品目や営農形態など決めて来られているのか、相談の後に栽培品目等を決めていくものなのか教えて欲しい。

担当課：各事業のセグメントごとの効果検証について、住む場所の決め手は一定ではないと思うため、効果検証は困難である。

担当課：就農相談については、「イチゴ農家になろう」という周知を HP でしている。誰でも参加できる就農相談であれば、栽培品目は決まっていない場合が多い。

委員：柑橘では無収入の期間がある。その点、イチゴであれば早い時期から収入を得られるので、栽培品目を絞っている点は評価できる。

(2)「令和3年度地方創生推進交付金の効果検証」についての内

「紀の川市ローカル×クリエイター共創プロジェクト」について、効果検証シート等（資料②、②-1）をもとに事務局及び市担当課より説明。

【質疑】

委員：ブランディングして新しい商品を作るとのことだが、販売面でのフォローはされているか。

担当課：今後は市の認定ブランドとして販売していく予定。認定ブランドとして展示会やマルシェに出店していく。素晴らしいクリエイターが参加してくれたため、販路を見据えた商品開発ができている。

委員：市のブランドとしてやっていると思うが、ブランディングの共通項はあるのか。

担当課：出来上がった商品が「個」ではなく「群」で販売戦略を進めていけるようなイメージで進めている。

(2)「令和3年度地方創生推進交付金の効果検証」についての内

「関空立国デスティネーション化推進事業」について、効果検証シート等（資料③・③-1）をもとに事務局及び市担当課より説明。

【質疑】

委員：周遊スタンプラリーは、国内の参加者を誘発できるため評価ができる。開催期間が1か月であった理由は予算の関係か教えて欲しい。また、良い取組であるので期間を長くする検討はなかったのか併せて教えて欲しい。

担当課：予算の関係ではない。協力していただいている店舗において特典を付けてもらっており、期間限定のサービスをしてきている関係で期間は限定的なものになっている。

委員：今後は関西万博などビッグイベントがあるのはもちろんのこと、アフターコロナ、ウィズコロナの期間、インバウンド需要が戻ってきても、紀の川市単体でも人を呼べるコンテンツを磨き上げていただきたい。

担当課：たま駅長や産直市場の良さや紀の川市の魅力を単体でも発信していきたい。また、周辺と連携した教育旅行の誘致ができないかの検討等、他市町のDMOを連携して事業を進めていきたい。Webマップについて、関西の様々な地域でやってみたいという声もある。関西、和歌山、紀北、という各エリアの中で自分たちの位置づけを作っていきたい。

(3) 「令和4年度地方創生推進交付金の申請内容」について

「住いも甘いも紀の川市」移住・定住・交流促進プロジェクト、「紀の川市ローカル×クリエイター共創プロジェクト」及び「関空立国デスティネーション化推進事業」について資料(資料④-1・④-2・④-3)に基づき事務局から説明。

○議長(仁藤会長)

今日の議題は終了となるが、全体を通しての何か発言はあるか。

○委員

紀の川市は、大阪府に近接しており立地が良い。新型コロナウイルス感染症に始まり経済状況が厳しい中であるが、協力しながら前へ進んでいければと思う。

5. その他

第2回紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会の開催時期について報告

6. 閉会(15:03)